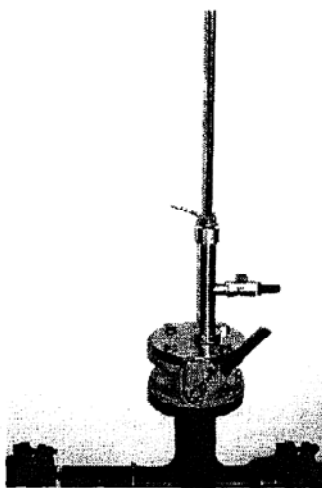


2007年(平成19年)10月22日(月曜日)

バタ弁から挿入可能

日本水機調査 新型不断水管内調査カメラを開発



NBB-15の挿入例

日本水機調査(本社・神戸市、山本政和社長)はこのほど、バタフライ弁形補修弁から不断水で挿入できる水道管内調査カメラ「ポール弁形補修弁兼用内視鏡カメラNBB-15」を開発、来年1月から発売する。カメラヘッド・挿入装置を小型化し、従来挿入困難であったバタフライ弁からの挿入を可能としたもの。既に

発売中のNQ-15、NP-15にNBB-15が加わったことで、より多様な条件での調査が可能となった。水道管路の適正な維持管理に向け、水道管内内視鏡調査に対するニーズは年々高まっている。同社では、これまでに消火栓や空気弁などのポール弁形補修弁から挿入するNQ-15、上部空間が狭い場所でも作業可能なNP-15を開発し、増

え続ける調査依頼に対応してきた。しかしながら、これらの機種はカメラヘッドが大きいため、バタフライ弁形補修弁からの挿入は不可能。バタフライ弁形補修弁を使用している管路は、まだ数多く存在しているため、これらの水道事業者からは「バタフライ弁形補修弁から挿入できるカメラの開発を」との要望が高まっていた。

新開発のNBB-15は、カメラヘッド径16mmを実現し、ポール弁はもとより、バタフライ弁の狭い空隙からも挿入可能。適心管径は75~150mm、調査可能距離は挿入地点から10~13m。高輝度LED採用の照明と、F2.9、画角81度のレンズを搭載した撮影素子25万画素1/4型CCDカメラにより、小さくても鮮明な画像が得られる内容となっている。

調査手順はいたって簡単。①ボックスを開ける②消火栓・空気弁を取り外す③補修弁に挿入専用フラスジを取り付ける④同フラスジに装置本体をねじ込んで装着する⑤補修弁の弁体を開く⑥装置本体に挿入されている中空シャフト上部から先端にカメラヘッドを装着したケーブルを管内に送り込むの手順。軽量・コンパクトなため作業環境の制約も少なく、安全・確実・スピーディに作業できる。

販売予定価格は1セット

240万円。また、オプション部品を使用すればサドル分水栓からの挿入も可能となっている。その場合の適心口径は20~50mm。
なお、同製品に関する問合せは同社ホームページ(www.jmbi.co.jp)あるいは本社管理部(078-927-0301)へ。